Ｉｔ　was a dark and stormy night.

訳：暗い嵐の夜だった。

月が死んだ女にそっくりだ（オスカー・ワイルドｂｙ.サロメ

深淵を覗く時、深淵もまたお前を覗き込む

Life's but a walking shadow, a poor player 人生は歩きまわる**影法師**、あ**われ**な役者だ

（シェイクスピアbyマクベス）

“All the world's a stage, －And all the men and women merely players.”

この世は舞台、男も女もみな役者。

（シェイクスピアbyお気に召すまま）

きらびやかなる宮殿、いかめしき伽藍、 その全てはかりそめの芝居、音もなく消え失せ、 後には霞すら残さない そして我々もまた、夢の如きはかなき存在

（シェイクスピアbyテンペスト）

善人なおもて往生をとぐ、況んや悪人をや

（親鸞聖人by歎異抄）

高笑いす、――されどもはやまず。

（Poe　by　Ｈａｕｔｅｄ　Ｐａｌａｃｅ）

牡羊座は、香水と火薬の化合物（アマルガム）

（ルイスロデン）

一　時代  
  
　それは或本屋の二階だつた。二十歳の彼は書棚にかけた西洋風のに登り、新らしい本を探してゐた。モオパスサン、ボオドレエル、ストリントベリイ、イブセン、シヨウ、トルストイ、……  
　そのうちに日の暮は迫り出した。しかし彼は熱心に本の背文字を読みつづけた。そこに並んでゐるのは本といふよりもろ世紀末それ自身だつた。ニイチエ、ヴエルレエン、ゴンクウル兄弟、ダスタエフスキイ、ハウプトマン、フロオベエル、……  
　彼は薄暗がりと戦ひながら、彼等の名前を数へて行つた。が、本はおのづからもの憂い影の中に沈みはじめた。彼はとうとう根気も尽き、西洋風の梯子を下りようとした。すると傘のない電燈が一つ、丁度彼の頭の上に突然ぽかりと火をともした。彼は梯子の上にんだまま、本の間に動いてゐる店員や客をした。彼等は妙に小さかつた。のみならず如何にも見すぼらしかつた。  
「人生はのボオドレエルにもかない。」  
　彼はく梯子の上からかう云ふ彼等を見渡してゐた。……

八　火花  
  
　彼は雨に濡れたまま、アスフアルトの上を踏んで行つた。雨は烈しかつた。彼はの満ちた中にゴム引の外套の匂を感じた。  
　すると目の前の架空線が一本、紫いろの火花を発してゐた。彼は妙に感動した。彼の上着のポケツトは彼等の同人雑誌へ発表する彼の原稿を隠してゐた。彼は雨の中を歩きながら、もう一度後ろの架空線を見上げた。  
　架空線は鋭い火花を放つてゐた。彼は人生を見渡しても、何も特に欲しいものはなかつた。が、この紫色の火花だけは、――まじい空中の火花だけは命と取り換へてもつかまへたかつた。

**(芥川龍之介 by 或阿呆の一生)**

**世界は考える者にとっては喜劇であり、感じる者にとっては悲劇である**

（byウォルボール）

The Tale of Squirrel Nutkin